

特集

新版『国語』 教科書

Q & A

新しい教科書では、子どもたちの言葉の力を育むため、これまで以上にさまざまな工夫をしています。今回の特集では、先生方からいただいたご質問に答える形で、その一部をご紹介します。また、新教材を使って、どんな授業が考えられるかのヒントを、経験豊かな先生方にお聞きしました。



言葉と楽しく、一歩ずつ

——新版教科書に込めた願い

光村図書出版 小学校国語編集部

学ぶ楽しさを
実感させる

確かな力を
培う

新版教科書を編集するにあたり、私たちは、光村図書の国語教科書で学ぶ児童に、「言葉で感じ、考え、想像し、自分の言葉で語ることができる」ようになってほしいと考えました。

児童は、言葉を使って気持ちや考えを伝え、これからの時代を生きていきます。そのためにも、確かな「言葉の力」を育てる教科書であるよう、編集に努めました。加えて、予期しないさまざまなことが起こる昨今の社会状況の中にあつて、児童が確かな「生きる力」を獲得できるよう、「主体的に関わる」「いつも問い続ける」「しなやかに生きる」姿勢を育みたいと考えました。こうした児童の姿を思い描きながら、「学ぶ楽しさ」と「確かな力」の二つを、編集の大きな柱に据えました。

国語の学びは、言葉との出会いであり、言葉を通じた他者との出会いです。その出会いが、児童にとって楽しく、豊かなものであってほしいと考えました。

新版教科書では、児童の関心を喚起する多彩なテーマと、確かな表現や論理性をもった作品・文章を追究するとともに、長く受け継がれてきた古典や昔話、四季折々の美しい言葉を掲載しました。

また、国語の学習開き、学級づくりから言語活動まで、あらゆる場面に、コミュニケーションの楽しさを味わえる教材を用意しました。すべての児童が人とつながり、その楽しさを存分に味わってほしいと考えます。

国語は「何を学習するのか分からない」と言われがちです。そんなご意見を受け、新版教科書では、「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」「何が大事なのか」がひと目で分かるようにしたいと考えました。そして、身につけた言葉の力で未来を切りひらいていく児童を育てることを目指しました。

そこで、学習目標を明確にし、知識・技能の整理から振り返りまでを提示しました。これらを通して、何を、どのように学ぶのか、どんな力を身につけるのかを明らかにし、児童の主体的な学びを実現することを目指しました。

幼稚園や保育所との連携は、どう図られていますか。

1A

小学校入学前までの体験を生かしながら、学習を楽しく
一歩ずつ進められるような入門期の構成としました。

小学校での学習の根底には、入学前の体験があります。そして、小学校での学習は中学校へと続いていきます。新版では、そのようなつながりを意識して編集しました。特に、小学一年生の教室で「小1プロブレム」が問題になっていることを踏まえ、入学したばかりの児童が小学校の学習をスムーズに進めていけるよう、さまざまな工夫をしています。

第一教材「あさ」

新版教科書の入門期第一教材「あさ」は、詩や挿絵からたくさんの言葉があふれてくる教材です。ここには、「つながる」「まるくなる」「みんな なかよし」など、入学したばかりの児童に最初に出会ってもらいたい言葉を掲げています。これらを声に出して読んだり、絵の中の子どもたちと同じように体を動かしてみたりして、心と体で言葉に出会ってほしいと思います。

「あさ はじめよう」

第一教材「あさ」に続いて、児童の「小学校で学ぶ」という大きな期待を大切にしながら、「学校って楽しいところ」という実感をもたせられるような教材を新設しました。編集部では、この教材群を国語学習の「スタートブック」と位置づけ、紙面に緑色の縁取りを施し、他の教材との違いがひと目で分かるようにしました。

「さあ はじめよう」で、児童は、これまでに体験的に知っていることや身につけてきたことを、国語・言葉の学習という観点で改めて見つめ直します。その姿から、先生方は、それぞれの児童が、すでに分かっていること、まだ分かっていないことを見取ることができます。児童を「小学校の学習」へスムーズに導入できるように、ぜひこの教材を活用していただきたいと思います。ここで扱っている内容は、一年生の間だけでなく、その後の学校生活、さらには社会生活の基礎となるものです。学習が進んでからも、折に触れてこのページに戻ること、基礎を確かめていただきたいと思います。

▼「なんて いおうかな」(1年上P10-11)



▲「あさ」(1年上P1-8)



「さあ はじめよう」教材一覧

- なんて いおうかな……学校生活の言葉を知る。
- どんな おはなしかな……お話に出会う。
- 姿勢と鉛筆の唱え歌……正しい姿勢で、正しく持つ。
- どうぞ よろしく……初めて名前を書く。
- こえの おおきさ、どう するの……適切な声量を知る。
- うたに あわせて あいうえお……「あいうえお」と出会う。
- ことばをつくらう……文字に親しむ。



▲「こえの おおきさ、どう するの」(1年上P18-19)

言語活動を通して国語の力を身につけさせるために、
どのような工夫をしていますか。

2A

単元冒頭に、つきたい力と言語活動を大きく見やすく示しました。特に「読むこと」では、学習の流れを常に意識しながら学習活動に取り組めるよう、手引きの紙面を構造化しました。

きつつきの商売

1 場面：きつつきが、お店を開きました。

きつつきは、きつつきにびったりのお店です。きつつきは、森中の木の中から、えりすぐりの木を見つけてきて、かんばんをこしらえました。かんばんにきぎんだお店の名前は、こうです。

おとや

林原 玉枝 作
村上 康成 絵

単元名は、「つきたい力」と「言語活動」で示しました。手引き冒頭にも単元名を繰り返し提示したので、学習目標がいつでも確認できます。

きつつきの商売

1 場面：きつつきが、お店を開きました。

きつつきは、きつつきにびったりのお店です。きつつきは、森中の木の中から、えりすぐりの木を見つけてきて、かんばんをこしらえました。かんばんにきぎんだお店の名前は、こうです。

おとや

林原 玉枝 作
村上 康成 絵

導入では、感想を問い、作品・文章を読む視点と言語活動の全体像を示しました。児童の学びを耕す場です。

きつつきの商売

1 場面：きつつきが、お店を開きました。

きつつきは、きつつきにびったりのお店です。きつつきは、森中の木の中から、えりすぐりの木を見つけてきて、かんばんをこしらえました。かんばんにきぎんだお店の名前は、こうです。

おとや

林原 玉枝 作
村上 康成 絵

下段に示された言語活動を通して、上段の課題に取り組むことで、身につきたい力を常に意識しながら学習活動を行うことができます。

きつつきの商売

1 場面：きつつきが、お店を開きました。

きつつきは、きつつきにびったりのお店です。きつつきは、森中の木の中から、えりすぐりの木を見つけてきて、かんばんをこしらえました。かんばんにきぎんだお店の名前は、こうです。

おとや

林原 玉枝 作
村上 康成 絵

「たいせつ」には、単元でつきたい力のポイントをまとめています。

児童が目的意識をもって、主体的に学習を進められるように、単元名を大きく見やすくしました。また、「読むこと」の学習の手引きは、単元名の流れが見開きで捉えられるようにするとともに、二段組み構成で紙面の構造化を図りました。

単元全体の流れを見開きで捉える

「目標を確認する」「課題に取り組む」「学習を振り返る」という学習の流れを一覧して確認できるようにしました。見開きの紙面の中で、そこでの学習全体を見渡せます。

二段組み構成で、力を身につけ、充実した言語活動を行う

三年以上の手引きは、二段組みの構成になっています。上段には読む力を育む「よりよく読むための課題」を、下段にはその単元で設定している言語活動を手順に沿って示しました。二段組みの構成によって、言語活動と教材の読み取りを一体化させた形で学習を進めることができます。

学習したことをもとに、自分の考えをもつ

これらの学習をもとに自分自身の考えをもつことができるよう、「自分の考えをもとう」という課題を設けています。自分自身の中や、学習材の外に答えを見つける問いです。「あなたは自身はどう考えるか」を問うことで、「自ら考える子ども」を育てます。

他にも……

虫眼鏡マークのコーナーでは、学習用語を取り出して解説したり、その学習で使った話型・文型を示したりしています。

この本、読もう

教材末の「この本、読もう」では、学習した作品・文章に関連した本を紹介しています。教科書から読書の世界が広がり、より本に親しむことができます。

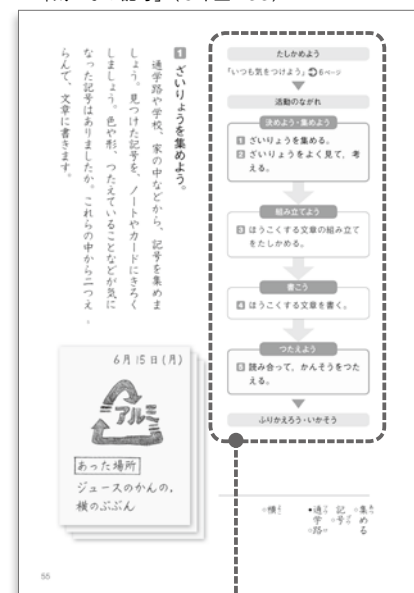
Q3

「話すこと・聞くこと」「書くこと」では、どのような工夫をしていますか。

3A

単元冒頭に「活動の流れ」を示し、学習活動の手順と、その単元での重点が分かるようにしました。また、実の場がイメージできるような学習場面を設定し、学んだことを日常生活に生かしていけるようにしました。

▼「気になる記号」（3年上P55）



「活動の流れ」で見通しをもち、重点を確かめられるようにしました。

「読むこと」の単元と同様に、単元名を大きく見やすく示しました。そのうえで、児童が主体的に学習に取り組めるよう、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の単元では、冒頭の「活動の流れ」や学習活動そのものを工夫しています。

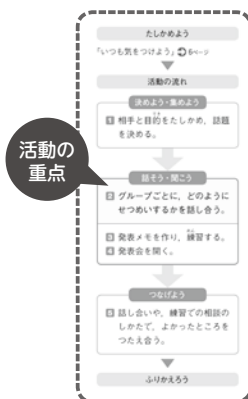
単元冒頭の「活動の流れ」では、学習全体を見通せるようにしたうえで、学習の重点箇所当たる項目を黄色で示して目立つようにしました。児童にとって学習の中心が分かるだけでなく、先生方が、授業の中で活動を焦点化する際の参考にもしていただけます。

また、どの単元においても、学習の場が

イメージしやすく、日常生活に生かしていけるような言語活動を設定しました。自分たちの周りから材料を探そうことができたり、教科書に示された活動が自分たちの学校生活や日常生活とつながっていると感じられたいするものを、学習活動として提案しています。

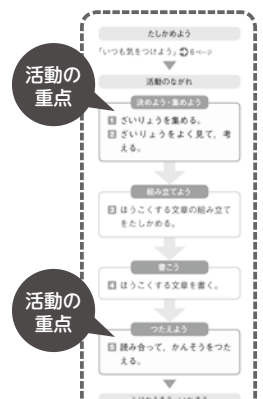
その際、児童がゴールを意識して学ぶことができよう、教材中の作例や発表例、できるだけ全体の形が見えるように示しました。なかでも、「話すこと・聞くこと」単元では、学習指導書付録CDをお使いいただくことで、活動の様子を音声で確かめ、具体的に想起できるようにしています。

「話すこと・聞くこと」



単元を三つのステップで示しました。

「書くこと」



単元を四つのステップで示しました。

Q4

これまでに学習したことを振り返ったり、力を定着させたりするための工夫はありますか。

4A

学習の中でいつでも活用できる資料や、学習の系統性が見える資料を、豊富に用意しました。

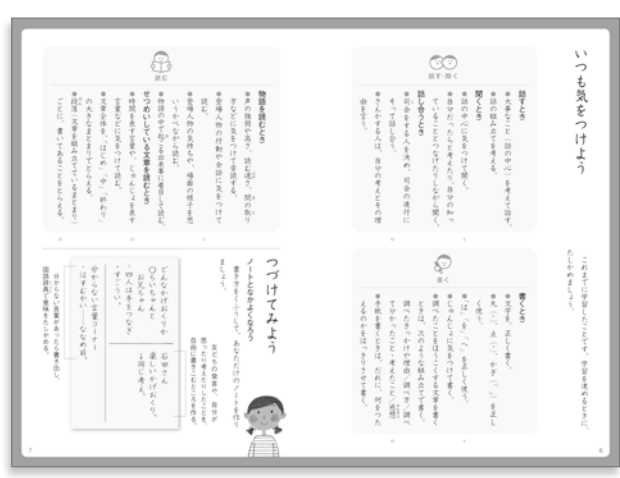
①領域別教材、②身につけたい力（指導事項）、③その学年の教材、の三つを一覧する機能をあわせもったページを新設しました。

上下巻冒頭の「いつも気をつけよう」には、前学年や上巻までに学習した内容をまとめました。また、継続して取り組みたい内容を「続けてみよう」で示しました。

その学年に出てきた「たいせつ」を、領域別にまとめて掲載しました。既習事項を参照したり、これから学習することを確かめたりする際に用いることができます。



▲「3年生の学習を見わたそう」（3年上P4・5）



▲「いつも気をつけよう・つづけてみよう」（3年下P6・7）



▲「『たいせつ』のまとめ」（5年P232・233）